

学習と直感力・直観力

外部の情報を認識するために感覚がある。一般的には、明確に認識できる視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚の5感を通して、外部の情報を認識する。医学的には、さらに平衡感覚や圧覚、痛覚などさまざまな種類の感覚もある。これらの感覚は、外部の情報を明確に認識するために備わっており、自分の体験を他人に説明する時には、これらの明確な感覚で得た情報を基にして説明すれば、客観性のある情報として相手にも認識してもらいやすい。しかし、これらを認識する感覚器には、かなり限られた閾値が存在する。例えば、モノを見る際には、かなり限られた波長の範囲しか認識できないため、実際に見えていると感じているものは、存在するもののごく一部に過ぎない。これは、心の中の現象にも当てはまり、実際に自覚している顕在意識に対して、無自覚に持っている潜在意識は、意識の中の9割を占めていると言われている。それを存在するものに当てはめてみると、9割のものは見えていないのかもしれない。この既存の感覚で認知できない物や心を感じ取る力が直感力であろう。直感と似た言葉として、直観という言葉もあるが、これは理屈抜きに物事の本質を見極めるということで、受動的な概念と能動的な概念の違いがあるのかもしれない。

ここで、物事を学習していく際に、直感や直観がどのような役割を果たすかを考えてみたい。勉強をする時は、通常は、見る、読む、聴くなどを通して、本や指導者、オーディオ媒体から学ぶことになる。多くの場合は、情報を脳にインプットしていき、学生の場合は、インプットしたことを、試験を受けることによって、知識として定着させていく。アクティブラーニングでは、得た知識を他人と相互作用させ、自分の頭でよく分析・思考することによって、アウトプットできる知識を定着させることができる。直感力や直観力は、これまで人生で学んできた多くの知識や経験を基にして、感じる、あるいは、ひらめくように物事を認識することができる力と考える。これらの力を学習に用いた場合は、言語として発せられた以外の情報を学ぶことができるし、本に記載された文章の裏側を感じ取ることができる。もっと重要なことは、物事の本質的に大事なことを察知できるかもしれない。おそらく、経験を積んだヒトの学習能力が向上し、多くの成果を上げられるのは、この直感力や直観力を用いているのだろう。直感が鋭ければ、対人関係のコミュニケーションでも優れた力を発揮できると思われる。学生の中には、勉強時間が非常に少ないのに、非常に優れた成績を上げる学生が存在する。そのような学生は、おそらく、直感力や直観力を用いて、本質的なポイントを捉える力が優れているに違いない。

最後に、直感力や直観力を身につけ、発揮するためにはどうすれば良いのだろうか。私見を述べてみたい。まず、これらの力の基礎となる知識や経験を増やし、

人生の中で成長していくことが必要となるであろう。2つ目は、心にある程度余裕を持って生きていくことも必要である。目の前のことで精一杯で全く考える余裕がないと直感力や直観力を働かせる余地はなくなる。一定期間、心を空虚にすることによって、直感が出てくるように思われる。ヒトは8分の感覚で努力した時に最高の成果が得られやすいのも、直感力を発揮しながら活動するからかもしれない。3つ目は、できるだけ自然や芸術を味わい、心の受容性や客観性を高めることであろう。既知の感覚で説明できない多くの漠然とした世界に触れていれば、直感が発達するかもしれない。禅やマインドフルネスにも通じるが、心をもたないで物事を受容し、考えれば、直感力、直観力をしっかりと無意識に発揮できると思われる。学習においては、この直感力、直観力を無意識に発揮することにより、多くの成果を上げることが期待できる。